

議 事 録

会議名	平成 27 年度定時常任幹事会		
No.		文責	岸田、
開催日時	平成 27 年 6 月 21 日 (日) 13:00 ~ 14:30	開催場所	第二むさしのホール会議室
出席者 【敬称略】	1期 野村寛次、浜野喜代子 2期 榎本奎介 5期 山本眞 7期 丸山勝彦、谷啓 11期 長峰清文 12期 小川忠夫 13期 立花恵美子(代理山崎哲之) 15期 荒井耕一郎、 鳴海多恵子 16期 川上純二 17期 佐野伸江、大久保恒夫 18期 関俊夫、中谷和夫、 中久保慎一、佐々智樹、柳本婁美、岸田れい子 20期 川田紀雄、高木織江 24期 柳谷一郎 25期 神田薫、宮下真美 27期 富士森みつ 30期 湊信明、野久尾悟、丸森康平、根本学、 芹沢睦之		
会議の目的	決議事項 第 1 号議案 第 5 期 (平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日) 計算書類承認の件 第 2 号議案 第 6 期 (平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日) 予算書類承認の件 報告事項 第 5 期 (平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日) 事業報告 その他 昨年度の事業計画との相違に関して 70 周年記念事業 会報・名簿について その他		

内容

初めに

12 期小川常任幹事会議長により平成 27 年度常任幹事会の開催が宣言され、事務局より常任幹事 109 名のうち出席者 31 名、委任状 32 名によりこの常任幹事会が成立していることが報告された。

続いて議事録作成を 18 期岸田常務理事、25 期神田副理事長、30 期根本副理事長が担当することが承認された。

決議事項

第 1 号議案 第 5 期 (平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで) 計算書類承認の件

18 期関副理事長より付資料 、 、 の計算書類等に従い説明がされた。

- (1) 収支計算書のわかたけ会への寄付が 70 万円と前年度に比べ 40 万円増えたのは一昨年度の会報発行により寄付が増えたためである。
- (2) 卒業記念品費が予算を上回ったのは消費税のひきあげによるものである。
- (3) ホームページ改修費は当期に執行せず来期に繰り越す。
- (4) 会報製作費が計上されていないのは 3 月 31 日現在で未請求、未払いのためである。活動そのものは行われている。
- (5) 事務局運営費が予算を上回っているのは役員改選にともなう登記費用を予算化していなかったためである。役員改選時には登記が必要なためこの費用は 2 年に一回必要となる。
- (6) 貸借対照表の貯蔵品は 65 周年記念 DVD の残存価値で 192 枚分である。

以上の報告をもとに 25 期宮下監事より監査報告があり、計算書類は適正であり法令及び定款に従い、同窓会の状況を正しく示していることが報告され、全会一致で承認された。

第2号議案 第6期（平成27年4月1日から平成27年3月31日まで）予算書類承認の件

関副理事長より添付の収支予算書に従い第6期の予算の説明がなされた。

- (1) 懇親会予算150,000円は会費3,000円、参加者50名を見込んでいる。
- (2) わかたけ会への寄付を30万円としたのは、同窓会への寄付は増えてはいるが会報発送費も増えており今年度の経費が不確定なため、最低限の金額を計上した。学校からも頼りにされているのでできるだけ増やしていきたい。従って増額が可能となった場合、理事会決議で増額できるようにこの常任幹事会で事前承認をいただきたい。
- (3) ホームページ保守費が増えているのは3月末時点での未払い分が含まれているためである。
- (4) 会報制作費が増えているのは3月末時点での未払い分が含まれているのと、昨年度から1,000部増刷する予定になっているためである。（昨年度65万円、今年度95万円）
注）会報発送に利用しているクロネコメール便が廃止される方向で、そうなると1通につき約80円の経費増となり、それだけで30万円余計にかかると思われるが、現時点で決定されている訳ではないのでその分の予算は計上していない。
小学校同窓会とも連携を密にし状況を注視していく。
- (5) 今年度登記はないため事務局運営費は例年通り15万円とする。

以上、説明を受けた後、全会一致で第6期の予算書類は承認された。

報告事項

第5期事業内容、第6期事業計画報告の件

関副理事長より第5期事業内容の報告がされた。

続いて第6期事業計画について、主に昨年度の事業計画との相違に関して大要下記のとおり報告がされた。

- (1) 生徒の職場体験学習先の調整 15期荒井理事長より報告
中学校の社会科担当の田崎先生（39期）より職場体験学資受け入れ先紹介についての相談が同窓会に寄せられ、立川商工会議所会頭（多摩信金会長）の9期佐藤浩二さんのご尽力により2年生全員の受け入れ先が見つかった。今後も同窓会として同様の依頼には協力していきたい。
- (2) 70周年記念事業 30期野久尾常務理事より報告
昨年12月に中学校とキックオフミーティングを行った。同窓会からは荒井理事長・根本副理事長・野久尾常務理事が担当する。
70周年事業を行うことは5月18日に中学校の会議で正式に決定された。中学校が主体、同窓会が後援する形で、実施は2017年の6月か7月の土日の予定。今年中に時期、内容を決定。中学校としては、大学からの受け取る金額は年々減少しており同窓会からの資金面での協力（寄付）をお願いしたいとの意向。
中学校としては60周年の際に作成した、研究成果をまとめた「研究誌」の発行を行いたい。記念誌も作りたいが、時代も変わってきているので、紙ベースがよいかDVDが良いかは検討中。中学校側では「同窓生による講演」を希望している。
「記念パーティー」なども協力していきたい。
詳細は決まる都度HP・常任幹事宛メールなどで発信していく。

(3) 会報・名簿に関して

話し合いの前に現時点での会報発送状況が配布された。以下発言内容。

会報発送 1 回目は 17 期まで (1600 先)、2 回目は 34 期まで (2600 先) に送付した。

会報郵送のため 34 期までの幹事と思われる方をお願いして名簿を収集したが結果は発送一覧にあるように各期ではらつきがある。

発送先の少ない期：2,4,6,10,11,19,22,24,26,27,28,29,31,32,33 の各期。

小金井に統合される前の各クラスでの交流の希薄さや期の幹事が不明なども要因の一つ。

期としては名簿を持っていても同窓会に提出してもらえない。

昨年度より卒業時に任意で住所を提出してもらうことを始めた。従って 66 期の名簿は手元にある。

今後これも続けていく。問題は 35 期から 65 期までをどう埋めるかである。

卒業後も恩師に年賀状などを送る生徒はいるので恩師が名簿を持っている可能性があるのではないか。

70 周年記念事業まで会報を出すチャンスはあと 2 回しかない。来年発行の会報は

できるだけ卒業生全員に出すべき。費用は広告を掲載するなどすればよい

発送時には送料が増えることを明記して寄付を募るべきである。

名簿の入手に関しては学校ともしっかり話し合う必要がある。

(4) その他 (発言内容)

HP に関して

2007 年から 2011 年までの旧 HP に掲載されていた記事や写真などを現 HP へ移行する外注作業が完了し、先月から現 HP で見るできるようになった。

同期会は横のつながり。同窓会は縦のつながりだと思うが、現状それが難しい。

それを解消する手立てとして部活を利用したい。たとえば卒業後もコーチとして部活に参加している人などを是非理事会で紹介してほしい。

同窓会は永続的な活動が求められる。受け継いでくれる人がなくなった瞬間、組織がなくなってしまいうリスクを避けなくてはならない。そのためには小さいマンパワーで続けられる組織づくりをしないと行けないと思う。また、同期会のない期の人を同窓会へ引き込むのではなく、逆に同期会のない学年に同窓会からアプローチすることで同期会を生み、期全体が同窓会へ参加するようになるのではないか。

以上により質疑応答が終了し、議長により 14 時 30 分、閉会が宣言された。
